

令和6年度 授業改善推進プラン教科別計画【数学科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策 「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	中・長期的な改善策
1年	福泉 小坂 中村	①授業中の理解度は高いが、家庭学習の習慣が定着しておらず、学習内容が定着しない生徒が多い。 ②既習事項が身につけていないかあったり、数学の有用性を実感できなかつたりして、興味・関心が低く、学習に前向きに取り組めない生徒がいる。 ③自身の考えを論理的に伝えることに課題がある。	具体的な改善策 短期的な改善策 ①小単元ごとに演習問題の時間を取り、学習内容の定着を図る。毎回の授業で、学習中の副教材のページを示し、家庭学習を促す。 ②授業の冒頭に振り返りに取り組むことで、既習事項とのつながりを意識させ、既習事項を活用して課題を解決しようとする姿勢を身につけさせる。見方・考え方を働かせ、学び合いの中で主体的に取り組ませることで、教科の楽しさを感じさせる。 ③学びを振り返る場面を設定し、自身の考えを式や図、グラフ等を用いて表現する機会をつくる。	中・長期的な改善策 ①単元の学習を終えた後に演習問題を行う。 ②単元に1回以上、実生活に結び付いた題材を扱い、数学の有用性を実感させる。課題の難易度を適切に設定し、使用する知識・技能を提示し、数学的思考を高める。 ③学びあいの場面を設定し、式や図、グラフ等を用いて自身の考えを他者に伝える機会をつくる。
		①家庭学習の習慣が定着しておらず、学習内容が定着しない生徒が多い。家庭学習の課題の提出率にも課題がある。 ②基礎的な計算問題には前向きに取り組むが、既習事項を利用して考える問題において試行錯誤しながら粘り強く考えたり、問題解決の過程を振り返ったりする力に課題がある。 ③事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現することに課題がある。	①授業内で演習の時間を多く設け、基礎的な計算力の定着を図る。 ①似た問題を繰り返し解かせたり、説明させたりすることとで知識の定着を図る。 ②解法を説明する前に、既習事項を使って自力解決する時間を設ける。また、毎授業ごと内容を振り返る時間を設ける。 ③なぜその式になったのかをグループでお互いに説明し合う時間を設ける。	①②自己調整学習ノートを作成し、家庭での振り返りと学習の定着を図る。ノートでは、全授業において、授業への取り組み方への振り返り、問題演習への振り返り・まとめ、問題演習に取り組ませる。 ①②新しい単元に入るときに、既習事項との関連を考えさせることで、関係性を理解したうえで取り組めるようにする。 ③ことばの式を用いるなど、1つ1つの式の構造と意味を確認していく。また、確認した後に生徒同士で説明し合う時間を設ける。
3年	後藤 中村 山本 小坂 福泉	①学力差があり、学習内容の定着に差が出てきている。特に知識・技能の定着は図れているが、少し発展的な内容になると手が止まる生徒が多くいる。 ②ワーク等の課題に関しては、取り組みはするものの、期限までに提出することを一番考えており、内容理解まで手が回っていない生徒も多くいる。今後は受験も控えているので、学習に対する意識を変え工夫が必要となる。	①生徒一人一人に合った問題を作成し取り組みさせる。また、生徒がタブレットに関する使用ルールが守られるのであれば、支援ソフトを活用する。 ②計算などの機械的に演習する問題も「なぜそのように計算していくのか」など発問をしていき、論理的思考能力を養っていく。 ②すぐに答えを見るのではなく、まずは考える習慣をつけさせる。 ②生徒同士の学びあい、教えあいの機会をつくる。	①定期テスト後に解き直し、振り返りを書かせて提出させることで、自分の苦手なところに気付けさせる。また、定期テストをやったりばなしで終わらせるのではなく、解けなかった問題を解けるようにして次につなげるようにする。 ②定期テストにワークの類題を出題することで、ワークの問題にも真剣に取り組ませる。また、授業の隙間時間を利用して少しずつワークに取り組むようにさせる。 ②粘り強く指導をしていき、自力で解決する能力を身に付けさせる。